

# はまぼうふう vol.37 2011. 1. 5.

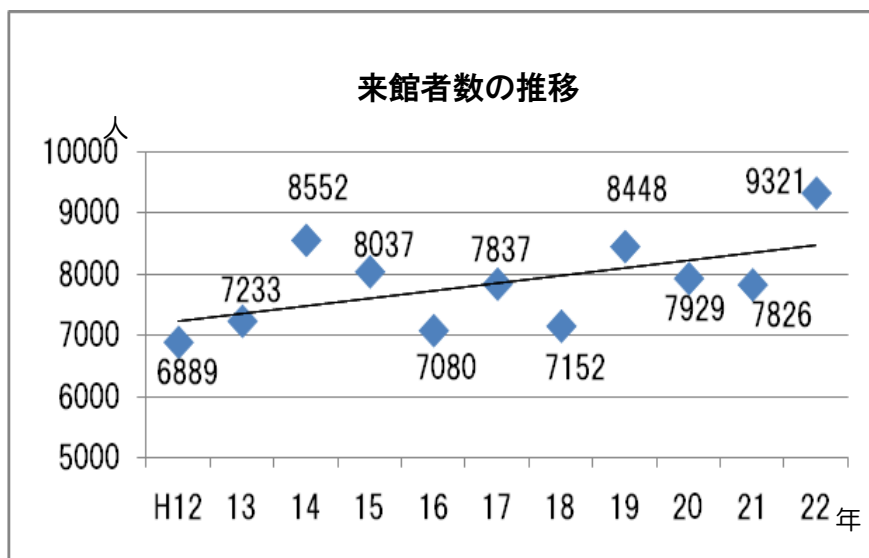
## 石狩浜海浜植物保護センター通信

HP 上ではカラーでご覧になれます

### 開設11年目を終えて

石狩浜海浜植物保護センターがオープンして今年で11年目。多くの市民ボランティアさんに支えられ、保全活動に取り組んできました。今年の来館者数はこれまでで最多の9,321名。11年間の来館者数は86,034人となりました。

石狩浜の海浜植物保全に関する意識が少しずつ市民の間に定着しつつあることを感じる一方、利用者からは「今までセンターを知らなかった」という声もあります。今後は、石狩浜の利用者の多くを占める市外へのアピールにも取り組んでいきたいと思えます。



22年度からセンター道路沿いの塀に立てたのぼり。来館者数アップに一役？

### 海辺の自然塾「海」をテーマに

海辺の自然塾は、海辺の環境保全を幅広い視野で考える座談会形式の勉強会です。

どなたでもご参加できます。今冬は石狩湾の環境がテーマです。

第5回「石狩湾はきれいになったか～海底砂の分析・研究から」

講師：藤女子大学人間生活学部・水産学博士 乗木新一郎教授

日時：平成23年1月29日（土）10時～12時

申込締切：1/27（木）

第6回「川と海が育む石狩湾の魚～シラウオの研究から～」

講師：（独）道立総合研究機構中央水産試験場 山口幹人研究員

日時：平成23年2月19日（土）13時30分～15時30分

申込締切：2/17（木）

共通して

会場：石狩市花川北コミュ

ニティセンター

定員：20名（先着順）

対象：高校生以上

参加費：100円

主催・申込：海浜植物保護

センター

**センターの活用・石狩浜学習への取り組み**

右に10年間の学校利用状況を示しました。海浜植物保護センターを活用する小中学校や幼稚園は、少しずつ増えてきている様子が読み取れます。

センターでは、石狩浜の自然と環境の課題について学ぶプログラム、「石狩浜学習のすすめ」を平成19年に作成しました。これをもとに、授業に取り組む学校は毎年数件ありますが、必ずしも十分な活用状況とは言えません。

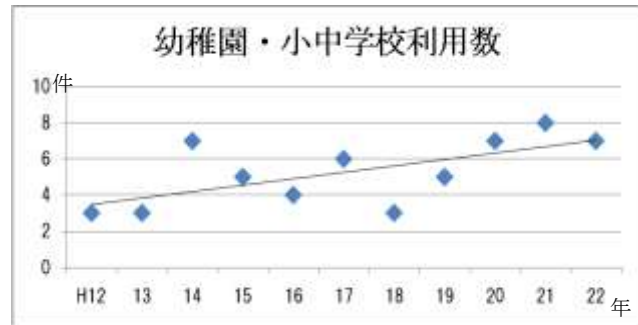
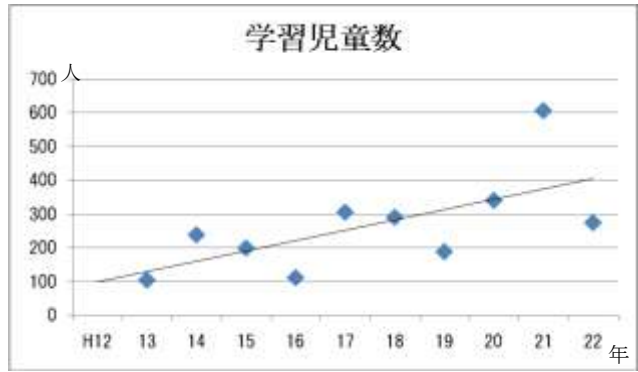
今後は、プログラムを活用する学校が増えていくよう発信を図るとともに、プログラム指導に係わるスタッフの育成に努めます。

以下に、プログラムの概要について紹介します。

**1. 石狩川河口地形の成り立ち・海辺の自然観察**

石狩川と石狩湾、遠くの山並みを眺望しながら、石狩川河口砂嘴の成り立ちや周囲の地形について説明します。

その後、「〇〇色の花」「花に来る虫」「ピカピカの葉」などの言葉が描かれたカードを手掛かりに、海浜草原にある草花や生き物を探します。これらを自ら探し出し、指導者側から説明を加えることで、食物連鎖、海浜生態系について目を向けるきっかけとなります。砂浜を歩き、波打ち際の生き物についても同様に観察します。



ビジターセンターテラスから石狩川河口を眺望



カードを手がかりに動植物を探します。スケッチをすることも。



波打ち際を歩いて、生き物や流れ着いたものを観察

**2. 保全の課題を学ぶ**

石狩湾新港に近い浜では、マナーのないレジャー利用により、ごみの散乱や植生破壊が進み、景観や自然環境の悪化が進んでいます。これらの現場を見学し、植生破壊が進んでいる現状を実感し、環境保全と利用のあり方について考えます。また、砂浜では漂着物を集め、漂着ごみの実態についても学びます。



植生破壊の現場を見学



漂着物を集め、ごみと自然物に分類。自然分解されないものの多さを実感します。

### 3. 保全への貢献 ハマボウフウの播種・まとめ

DVD やセンター展示を見ることで、これまでの学習の総括をします。また、現地学習の最後には、過度な山菜採りにより保護区以外では激減してしまったハマボウフウを増やすため、海水浴場近くの砂丘に播種をします。

学習のまとめとして、学校でレポートなどを作成します。今後は、マナーある海岸利用を促す啓発用のポスター・ちらしのデザイン作成などへの取り組みを提案していきたいと思います。



DVD や展示での学習



ハマボウフウの播種



まとめられたレポート

### 海浜植物保護センター見本園の10年とこれから

海浜植物保護センターに見本園があることをご存知ですか。建物に隣接する約 2,100 m<sup>2</sup>の敷地です。開館当初は半分以上が植生のない砂地の裸地でしたが（右の写真）、石狩浜で見られる海浜植物を一同に集めること、それらを観察しやすい状態に維持することを目指し、平成 18 年までは来館した子どもたちによる播種・移植を主に行い、平成 19 年以降は、職員が除草と補植を主に行っています。



平成 12 年の開館時。右(南)半分は砂地の裸地。左(北)は自然植生。



開館記念として、ハマヒルガオとハマエンドウを播種。（平成 12 年）



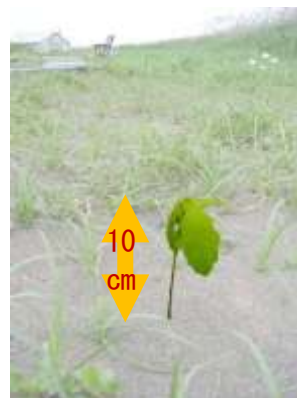
播種から 1 年後のハマエンドウの様子。モノクロだとわかりにくいですが、花が咲き乱れている。（平成 13 年）



現在の同じ場所。安定した砂地を好むチャシバスゲやエソカワラナデシコが生える。（平成 21 年）

開館当初、砂地の裸地に、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、ハマボウフウなど砂丘前方の不安定な砂地を好む海浜植物の播種や移植を行いました。これらが定着するまでの期間は約 1~2 年。その後、2~3 年は維持されますが、それ以降は砂地が安定して内陸性植物が増加し、不安定な砂地を好む海浜植物は姿を消していきました。一方、砂丘後方の安定した環境を好む植物は、いったん移植した後は、長いもので 10 年はその場所に生き続け、現在に至ります。

開館した年の秋に播いたカシワのドングリは、翌年発芽し、10 年経過した今年、大人の背丈以上に育ち、ドングリを付けるまでになりました。



平成 13 年のカシワ  
(色調補正)



平成 21 年のカシワ

今年、北海道大学農学研究科花卉緑地計画学研究室は、学生実習の中で、当センター見本園のデザインに取り組みました。そこで提案されたコンセプトは「縮景（しゅくけい）」。

石狩砂丘で見られる砂丘植生の帯状構造を見本園に再現するという提案でした。

このデザインを取り入れていくならば、課題は、砂丘前方の不安定な砂地を好む海浜植物が生育する環境を維持管理し続けることです。そこで、提案されたのが、「触れ合い、学びながら維持管理する」というアイデアです。

「ふれあいコーナー」として、海浜植物を掘り返して地下茎を観察したり、草木染めやクラフトの材料を集めたり、砂遊びで海砂の感触を感じられるコーナーを一部に設け、子どもたちが砂を掻き回すことで、砂丘前方の不安定な砂地環境が維持される、という発想です。

今後このアイデアを少しずつを取り入れ、花を楽しむだけでなく、「海岸砂丘」の自然について体系的に学べる見本園づくりを進めていきたいと思っております。

### 最近の活動

**石狩浜定期観察の会企画展「石狩海岸の自然～はまなすの丘の観察から～」**（札幌市環境フラザコラボ企画）開催しました。12/13～26に札幌市環境プラザで花の写真等約100点を展示。18日にははまなすの丘花ごよみを映したスライドショーを開催。32名の参加者を前に、メンバーが実感を込めて、花や活動時の秘話などをお話しました。

### 「石狩浜ファンクラブ設立準備会」始動

石狩浜の自然環境の保護と利用の両立を目指し、保全活動を支える会員を幅広く募り、石狩浜の魅力

の再発見や活用に取り組んでいくための活動グループ「石狩浜ファンクラブ」の設立に向けて、有志が準備会を設立しました。興味のある方はどなたでも参加できます。まずは、センターまで問合せ下さい。

### 今後の予定

3/9（木）9：00～12：00、日本生態学会札幌大会シンポジウム「日本の砂浜海岸における砂丘植生の現状と課題」でパネラーとして「石狩浜における海浜植物保護の道のりと課題」について報告します。

※参加には、日本生態学会札幌大会参加申込が必要です。



提案されたデザインのひとつ「海のフラグメント」  
（日本造園学会北海道支部学生セッション（平成22年度）設計・計画部門佳作受賞）

問合せ

4/29～11/3: 石狩浜海浜植物保護センター 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1 tel.0133(60)6107

申込み

11/4～4/28: 石狩市役所市民生活部内 〒061-329 石狩市花川北 6 条 1 丁目 30-2 tel.0133(72)3240

email. [ihama@city.ishikari.hokkaido.jp](mailto:ihama@city.ishikari.hokkaido.jp)

HP: <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/>